

2013年4月1日

愛知製鋼株式会社

2013年度入社式の実施について

愛知製鋼株式会社（本社：愛知県東海市、社長：藤岡高広）は、4月1日（月）、当社体育館（愛知製鋼企業年金基金体育館「アスカム」）において「2013年度入社式」を行った。

本年度入社の新入社員は、事務職8名、技術職15名、業務職2名、技能職41名の計66名である。なお、藤岡社長から新入社員への挨拶要旨は、以下のとおり。

<藤岡社長挨拶要旨>

新入社員の皆さん、入社おめでとう。

当社は、創業者の豊田喜一郎氏が「よきクルマは、よきハガネから」という高い志をもって、1940年3月8日に設立した会社である。以来、創業の精神を忘れることなく、諸先輩方がさまざまな努力を積み重ねた結果、「世界に冠たる自動車用特殊鋼・鍛造の一貫製造メーカー」という評価をいただくまでになった。

近年の経済環境を見ると、2008年後半の経済危機以降、世界経済は大きく変わり始めている。当社の主要な需要先である自動車業界をとっても、車そのものが大きく変わる**需要構造の変化**が急速に進んでいる。HV車をはじめとした低燃費化・小型化する次世代車が今後大幅に拡充することになる。この動きは自動車1台あたりの特殊鋼使用量減少や材料の変更など、特殊鋼メーカーにとっては、これまでにない厳しい局面を迎えることを意味する。

また、**電力問題、現地調達**の拡大、そして**原材料高騰によるコストの上昇**等が進む中で、市場のグローバル化が急激に加速し、今後は国内のみならず海外の同業者を含めたグローバル競争となり、非常に厳しい経営環境となっていく。

このように大きな変化の波の中で、私たちは企業として生き残り、勝ち残っていかなくてはならない。そのためには、**自ら変え成長し続けていく**ことが必要不可欠である。すなわち「**適者生存**」である。現状に安心しきっていると、大きな環境変化が起こった際に全く対応できず、生き残っていきことができない。当社がめまぐるしい環境変化の中で成長するためには、一人ひとりがどう変わっていくべきなのかをよく考え、実行していくことが大切である。

このような環境の中で入社いただいた新入社員の皆さんに、愛知製鋼の一員となるにあたり、私からお願いしたいことが2点ある。

1 点目は、当社の企業文化である「**1S文化**」に基づいて仕事に取り組んでいただくこと。1Sの“S”は、「**正直(shoijiki)**」、「**安全(Safety)**」、「**清掃(Seiso)**」の3つを指し、この3つを第一にという意味が込められている。

皆さんには若者らしい行動力で、今後いろいろなことに挑戦していただきたいと思う。しかし、挑戦が必ずしもうまくいくとは限らない。大事なことは、失敗を素直に反省し、事実を隠すことなく「**正直**」に報告すること。そして、その失敗から学び、次の機会にどう活かすのかをしっかりと考えること。次に「**Safety First**」、すなわち安全第一を徹底してほしい。「**安全は作業の入口**」という言葉がある。これは安全がどんな作業よりも優先されるべきであるということの意味する。そして、この「**正直第一**」、「**安全第一**」に加えて、「**清掃第一**」を徹底し、職場をいつもきれいに保ち、問題がすぐに見つけられる職場づくりを行うこと。さらには、これから皆さんが実際に仕事をしていく中で、自分なりの立場で「1S」とは何かを考え、自問自答しながら「1S文化」への理解を深めていただきたい。

2点目は、「**I will**」の精神。「**I will**」とは、「私がやってやる」、「私が会社を変えていく」という強い当事者意識の表現である。「**We will**」ではなく、「**I will**」。「私が」という一人称であるところがポイントである。

新入社員の皆さんは、「どんな困難な仕事も絶対にやり遂げてやる」という強い決意を持つこと。そして、しっかりと考え、汗をかきながら「**現地現物**」で仕事に励み、「やる気・元気・本気の3つの『**気**』」を原動力に若者のパワーで会社を変えていってほしい。

本日から皆さんは、社会人として、そして愛知製鋼社員として、新たな一歩を踏み出した。皆さん一人ひとりが**自分の夢を描いて、夢に向かってチャレンジし続ける人**になり、グローバル化が加速するこの時代に、皆さんには国内・海外問わず活躍していただくことを期待している。広い視野を持ち、語学力をはじめグローバルに通用する専門知識と行動力を身につけ、一日も早く「その道のプロ」になり、積極的に世界へ羽ばたいていただきたい。

そして、地域の皆様からも「**いつまでもこの地にあり続けてほしい**」と思ってもらえる会社。つまり、地域からもお客様からも信頼される「**Company of choice (選ばれる会社)**」となるために、本日からその責任と自覚を胸に、社会人として新たなスタートを切ってほしい。

以上